

「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の開催に向けて

1. ワールドマスターズゲームズ 2021 関西大会の概要

ワールドマスターズゲームズは、IMGA（国際マスターズゲームズ協会）が主宰し、4年ごとに開催されている「世界最大級の生涯スポーツの国際総合競技大会」である。

第10回目となる関西大会は、アジア初、日本初、初めての広域開催となる。

【ワールドマスターズゲームズ 2021 関西大会の概要】

- 1 開催期間 2021年5月14日(金)～30日(日) (17日間)
 - ・開会式 5月14日(金) 岡崎エリア一帯(平安神宮等)
 - ・閉会式 5月30日(日) 大阪城ホール
- 2 開催競技 公式競技 35競技59種目(他 オープン競技実施)
- 3 開催場所 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市
- 4 開催目標 参加者5万人(国内3万人、国外2万人:150カ国・地域以上)
- 5 主催 (公財)ワールドマスターズゲームズ2021関西 組織委員会
- 6 共催 (公財)日本スポーツ協会、(公財)日本障がい者スポーツ協会
- 7 後援 スポーツ庁
- 8 参加者募集要項等主要情報の発表 2019年11月
- 9 エントリー受付開始 2020年2月1日

2. ワールドマスターズゲームズ 2021 関西大会の特色・魅力

○ スポーツと観光を楽しむ大会

競技に参加してスポーツを楽しむだけでなく、家族や知人を連れ立って大会前後の期間にも開催地に滞在し、周辺の観光地巡りなども楽しむ方が多い。

特に海外参加者は、ツーリズムのきっかけとして大会に参加する方が多く、国内からの参加者に比べて滞在日数も長期間に渡っており、開催地域へ多くの経済効果をもたらすだけでなく、参加者を通じて地域の文化や観光資源など地域の魅力を海外発信できる絶好の機会となっている。

(IMGA作成WMGガイドラインより)

- 国内参加者平均滞在日数 9.4日
- 国外参加者平均滞在日数 15.8日

(組織委員会発表:2017年8月)

○ 経済波及効果

大会開催効果(全国)は1,461億円、大会レガシー効果(2021年12月～2029年12月)も含めると1兆2,329億円

3. 本大会の位置づけの高まり

○ 国際的な位置づけの高まり

- ・ I O Cと I M G Aによる覚書の締結
(夏季オリンピックの翌年に同一開催国でWMGを開催。(2025年パリ、2029年ロサンゼルス))

○ 国内的な位置づけの高まり

- ・ 第二期スポーツ基本計画への位置づけ (平成29年3月24日)
- ・ 国会議員による超党派の「ワールドマスターズゲームズ2021関西推進議員連盟」の設立 (平成31年3月19日)
- ・ 政府が大会に協力する旨の閣議了解 (令和元年6月21日)
- ・ 政府の骨太方針2019への位置づけ (令和元年6月21日)

4. 大会開催準備推進体制

○ 組織委員会

2014年12月に、国・地方公共団体・経済界・スポーツ関係団体・大学関係をはじめ様々な個人や団体が参画する組織委員会を設立した。

組織委員会は、広域的、全体的な業務推進計画の策定、実施や府県政令市に対する情報提供、連絡調整など、大会開催準備の中核業務を担う。

〈事務局体制〉・職員数 事務総長以下50名 (2019年4月1日現在)

- ・部構成 総務部、企画部、大会部、競技部、交流部、広報部、誘客部、マーケティング部 (計8部)

○ 実行委員会

開催府県政令市ごとに実行委員会を設置しており、競技運営、地域文化の発信、開催地域内での大会参加者の案内、おもてなし等の業務を担う。

また、それぞれの競技開催地域における大会開催機運の醸成や、きめ細かい参加者の受け入れ体制の構築などを図るため、競技開催市町ごとの実行委員会の設立を促している。

5. 市町村との協力

ワールドマスターズゲームズ2021関西大会の成功に向けては、競技開催市町村をはじめ、関西広域連合圏内の市町村と一体となった取組が不可欠である。

については、市町村に以下のことについてご協力いただきたい。 ※詳細別紙

① 大会認知度向上のための取組

(市町村運営の各スポーツ施設におけるポスター掲示やチラシ配架、各種イベントでのPR、住民向け広報等によるPRなど)

② 開催府県域の観光情報を一元的に提供する観光サイトへの情報提供

③ 「TSUNAGU」プログラムへの市町村実施事業の登録

④ 「Team Do Sports」ポータルサイトへのスポーツ大会・イベント情報提供

⑤ 「チャレンジデー」への参加